

この世界で生きるあなたへ

～国境なき医師団の活動をふりかえって～

河野暁子

Bさん、お元気でしょうか。パレスチナは春を迎える頃ですね。日本の春は、桜の花が咲き誇りますが、パレスチナではどうだったか…。たしか、マジヌーンと呼ばれるピンクの花が咲いていたような気がします。10年以上前の春、まだ10歳くらいの少年だったあなたから、私はけっして忘れることのない言葉をもらいました（正確に言えば、あなたとは言葉を交わしてはいないのですが）。

当時、パレスチナ自治区のヨルダン川西岸には、イスラエル入植地が増えており、それは国際的にも問題となっていました。入植地に住むイスラエル人と近郊に住むパレスチナ人が衝突しないようにという名目で、イスラエル軍はパレスチナの村を装甲車で巡回していましたし、フェンスや壁を建ててパレスチナの土地を分断していました。そのようなイスラエル軍の行為に対して、パレスチナの若者たちは石を投げて抗議していましたね。

Bさん、あなたが暮らしていたヘブロンを初めて訪れた時、私はとても奇妙な町だと思いました。紛争下で敵対しているはずのイスラエル人が、そこに暮らしていたからです。イスラエルに住むユダヤ教徒にとっても、パレスチナに住むイスラム教徒にとっても、ヘブロンは聖地であるため、双方にとって譲れない土地だということでしたね。一本の道路を挟んで、こちら側にパレスチナ人、反対側にイスラエル人が住む場所もありましたし、もともとパレスチナ人が住んでいた建物に、イスラエル人が来て占拠してしまったこともありました。最も驚いたのは、ヘブロン旧市街です。ここでは、同じ建物の下にパレスチナ人、上の階にイスラエル人が住んでいるところがありました。イスラエル人たちは、階下を歩くパレスチナ人目がけて、ごみやコンクリートブロックなどを落とします。そのため、建物と建物の間には頑丈なネットが張られていましたね。



イスラエル入植地とパレスチナ人居住区



ヘブロン旧市街

ヘブロンに住むイスラエル人は銃で武装していました。イスラエル人がパレスチナ自治区で暮らすということは、武力でもって押し入り、パレスチナ人を追い出すために暴力をふるい、居続けようとするところだったのでしょう。通学途中のパレスチナの子どもたちが、猛スピードのイスラエル人の車に追いかけられる、後ろから鉄の棒で殴られるなど、子どもにとってはとても恐ろしい環境でしたね。

ヘブロンにはイスラエル軍による監視塔や検問所がいくつもあり、銃を構えて監視しているイスラエル兵の姿が目につきました。子どもたちが検問所を通過しようとする、イスラエル兵による暴力や嫌がらせがありましたね。カバンの中の持ち物を一日中調べられ、検問所を通過できずに学校を休まざるを得ないと、私はよく耳にしました。

Bさん、あなたは私の前任の心理士と会って、心理ケアを受けていたことがありましたね。とても元気になり、心理ケアはおしまいになっていたのですが、数カ月して症状が出始めたため、また心理士に来てほしいという依頼がありました。

私があなたの家を訪ねると、あなたは部屋からプイっと出ていってしまいました。どうしたのか、あなのお母さんにたずねると、あなたはこんなことを言っていたそうです。「前に心理士と会ってすごくよかったよ。一緒に遊べて楽しかったし明るくなったし。でも心理ケアを受けたからって何なの？心理ケアを受けて元気になったって、イスラエル兵は僕を殴るのを止めないじゃないか」。

私には返す言葉がありませんでした。あなたの言うとおりで。心理ケアを提供するひとりの心理士に、紛争は止められません。私はパレスチナで、そのことを十二分に感じました。私が家庭訪問したその晩に、イスラエル軍に襲撃されたお宅もありましたし、継続的に会っていた方が、イスラエル軍に連れていかれてしまったこともありました。当時の私は、それらの暴力に対して、「私にはどうしようもないことだ」「私は私にできる精いっぱいやるしかないのだ」と言い聞かせていました。

その後も私は、紛争や武力衝突によるたくさんの暴力を目の当たりにしてきました。どの現場でも、私が心理士として関わることは、たとえそれが微力であったとしても、誰かの支えになっていると信じて活動しました。けれども、あなたからもらった言葉は、池に投げられた小石のように、私の中にずっと居続けていました。

今、私は国境なき医師団のメンバーとして海外へは派遣されていません。私がヘブロンへ派遣されてから10年以上経ちましたが、パレスチナは依然として紛争下にありますね。世界を見渡せば、新たな争いも起きています。日本国内ではいくつもの自然災害と原発事故が起きました。残念ながら、あなたと会った時よりも、世界は平和になったとは言えません。誰もが安全で安心して暮らせることに対して、私は以前よりも渴望し、それは人生のテーマとなりました。

私がこのように考えるに至ったことが、Bさん、あなたからもらった言葉に対するお返しです。あなたに届くことのないお便りですが、いつか世界が平和になり、誰もが自由に行き来できるようになったら、私とあなたはどこかですれ違うこともあるでしょう。その時のために努力していきます。

*個人が特定されないよう、Bさんについては省略、改変してあります。